

JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告(AHA2020/ESC2020)

AHA2020 に参加して

三重大学医学部循環器腎臓内科学 ^{いし うら じゅん こ} 石浦純子

この度は第9回 Travel Award for Women Cardiologists (JSC/TAWC) にご選出いただき、誠にありがとうございます。ご選考いただきました先生方、日本循環器学会関係者の皆様をはじめ、かねてよりご指導・ご鞭撻をいただいております全ての先生方にこの場をお借りしてお礼申し上げます。2020年11月13日から17日の5日間、オンラインで開催されたAHA Scientific Sessions 2020に参加致しましたのでご報告させていただきます。

COVID-19感染症が各国に拡がる中、国内・国外問わず多くの学会がオンラインまたはハイブ

リッド開催となっており、本学会も本来であればテキサス州ダラスでの開催予定でしたが、オンライン開催となりました。昨年、私は第2子妊娠中で、AHA発表時は妊娠後期にもなるため不安もありましたが、指導医に相談しながら研究立案を行い、積極的に対象患者のリルートを進め、演題提出・採択に至り、無事発表までできましたこと大変喜ばしい限りでした。

国際学会の参加は今回が初めてであり、初の国際学会がオンラインとなりました。AHAでは多くの女性研究者が発表しており、世界に向けて堂々と自身の研究成果を発表している彼女達の姿

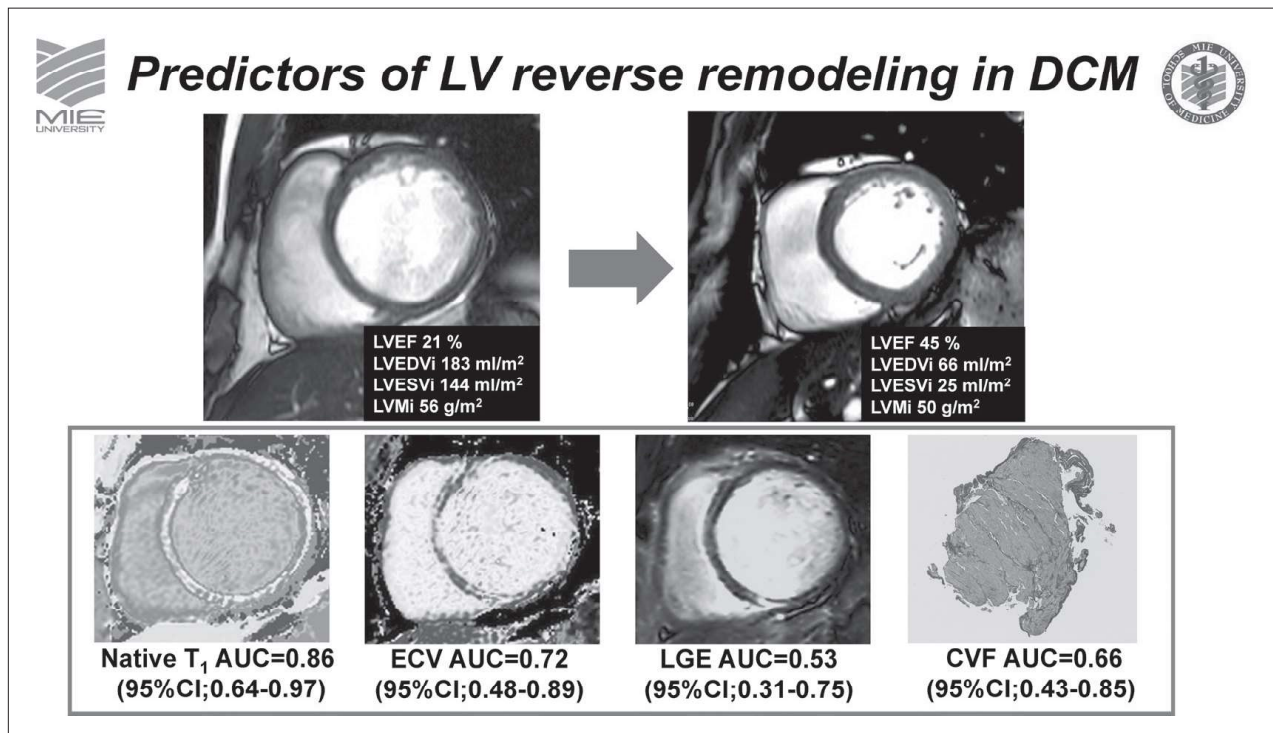


図1 発表時のスライド

は、これまで日々の診療や家事・子育てに追われていた私にとって、新たな世界の扉が開かれたようで、とても刺激的でした。

私はMRIのセッションで“Myocardial T₁ Mapping for Prediction of Left Ventricular Reverse Remodeling in Patients With Recent-onset Dilated Cardiomyopathy: a Comparison With Histological Tissue Characterization”というタイトルでポスター発表をさせていただきました。21例の非虚血性拡張型心筋症患者を対象に、至適薬物治療開始前後に心臓MRI検査を行い、治療開始前のnative T₁値がReverse Remodelingと最も良好な相関を示しました(図1)。自身の発表を聴講していただいた方々の反応や意見を直接伺うことはできませんでしたが、初の国際学会は発表準備から参加に至るまで、私にとってとても貴重な経験となりました。

コロナ禍でのオンライン学会は、時間や移動距離の制限がなく、子育て・妊娠中であった私も参加することができ、同じ研究分野の先生方がどのような研究を行い、どのような考えをされているのか、ゆっくり時間をかけて勉強でき、大変有意義な時間をもつことができました。しかし一方で、実際に学会会場に赴き、国際学会の空気感を肌で感じてみたいとも思いました。COVID-19感染症の一刻も早い収束を切に願うとともに、今後でもできる限り学会に参加し、自身のモチベーションや知見を広め、非虚血性心筋症患者の未来の診断・治療に少しでも貢献できるよう日々精進して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし

*

*

*